

裾野麗峰山の会山行報告書

文・羽鳥 写真・後藤

山行番 NO. 1655
日時 2015.09.06 (日) 曇・午後から雨
山域 西丹沢・菰釣山 (1379m)
コース 下土狩発5:30—御殿場—山中湖—道志キャンプ場着7:10—発7:31—三ヶ瀬川—西沢
林道最終地—菰釣登山道8:54—避難小屋9:31—菰釣山10:00—登山口10:52—
道志キャンプ場11:30—道志の湯—下土狩16:00
標高差 上り=道志キャンプ場約750m~菰釣山1379=約629m
下り= //
参加者 後藤、沖、峰田、掛橋、勝又薫、伊藤、羽鳥=7名

今日の道志村の天気は曇りのち雨、正午には雨の降る予報。ひょっとして中止かと思っただが連絡が入らなかったのが予定通り4時起床。降られる事を覚悟し、雨具の再確認をし、出掛ける。

5時40分裾野市役所で後藤車に拾っていただき、その後沖さんを乗せて246バイパスから138号で山中湖方面へ。東の空からは陽も差し空も明るい。天気は意外と持ってくれるかもしれないとちょっぴり期待する。

須走から山中湖への山道で鹿の群れに出会う。鹿も必死に命を繋いでいるのだろうが増えすぎが問題にもなる。御殿場では捕っても良い鹿の数が決められているようで、鹿の尻尾を持って行くと金になると沖さん。

山中湖畔まで登ってくると流石に外気が冷たくなってきたのか、車の窓がくもる。外気温は14℃。山中湖外周道路はツーリングの自転車が列をなして走っている。

「平野」のバス停から少し先の交差点を右、道志村方面へ。道志村温泉は横浜の人も割引になるそう。道志の森は横浜の水源になっていると沖さんが教えて下さった。

7時10分道志の森キャンプ場到着。寒くはない。歩くには丁度良い。それでも朝晩はかなり冷え込むようになったのか、少しオレンジ色に色づいた楓があった。小さな秋を発見。トイレを済ませ、靴を履き替える。地図とコンパスを取り出し整置の仕方を後藤さんに教えていただく。進行方向確認し、出発。

キャンプ場からは朝食の準備がすすんでいるのだろうか、良い匂いが漂ってくる。

左手に川のせせらぎを聞きながら林道を歩く。途中、小さいが栗を拾う。山栗だろうか？またまた小さい秋発見。出発して35分程で「菰釣山」の道標を確認し進む。さらに6分ほど歩くと、立ち入り禁止、監視カメラ作動中の看板と鎖があったが、そこを越えそのまま林道を進む。実はここが登山道に入る分岐であったと後で気付く。

「林野庁認定水源の森百選 横浜市有道志水源林」の指標があり、沖さんの言葉が頭に浮かぶ。50分ほど歩くと後藤さんが、道が間違っている事に気付く。ここで、地図を広げ確認すると予定のルートとは反対側の林道を歩いていた事に気付く。それでも地図でだいたいの位置を確認し、後藤さんの判断でこのまま進んでみる事になった。更に15分程歩くが明らかに下ってしまっており、登山道に入る場所も見つからず、地図上での位置も確定できなくなり、やはり菰釣山の道標まで戻ることとなった。ロス時間は約1時間。

分岐点からは暫く川にそって登山道を登る。所々で地図と地形を見比べてみる。尾根に出るまで

はしばらく谷歩きだ。それにしても森の中を流れる川の水は本当に澄みきっている。「森は水をつくり、水は人を育て、なのに人は水を汚しながら生きる」さだまさしの歌詞が頭に浮かぶ。心せねばと思う。15分程で川から離れると傾斜がきつくなってきた。地盤も砂礫のようで滑りやすい。山側の足で、体重移動に気を付けながら滑らないように登る。土壌が、黒く細かい砂のような物に変わる。後藤さんが富士山からの火山灰だと教えて下さった。

分岐から25分程で尾根に出た。周りは樹木に囲まれ展望はない。6分程で避難小屋到着。中に入ってみたが、とても綺麗に使われており、しっかりした建物だった。丹沢縦走する人が利用するのだろうか。水分を少し摂り出発。道の両端は笹に囲まれ、また辺りは樹木で展望が無い。さらに次第にガスがかかり暗くなってきた。

9時56分山頂着。私達以外誰もおらず、貸切り状態。気付けば、ここまで誰一人登山者に出会わなかった。

山頂も生憎ガスがかかり富士山は望めなかった。写真を撮り、水分を摂って10分足らずの滞在で山頂を後にする。

下山は城ヶ尾峠を経由するか、来たルートを下るかという事になったが、雨が心配されたので少しでも早く下って道志温泉でゆっくり昼食を摂ろうということになり、来たルートを下った。途中、今日初めて5~6人の登山グループ?とすれ違ったが、女性の一人は1~2歳の子供を背負っており足元を見たら登山靴(普通のズック)ではなかった。滑って怪我をしなければ良いがと気になった。

林道まで下りてキャンプ場に近づく頃には予報どおり雨が降って来た。道志の森キャンプ場11時30分到着。管理棟で駐車料金500円をしっかりと払ってキャンプ場を出発。

道志温泉で汗を流し、昼食をとり帰路についた。帰りはどしゃぶりの雨になった。

今回はお天気に恵まれず、富士山を望むことはできなかったが、暑くもなく寒くもなく、川の流れる音を聞きながら苔むした森の中を歩くことができ、とても気持ち良かった。

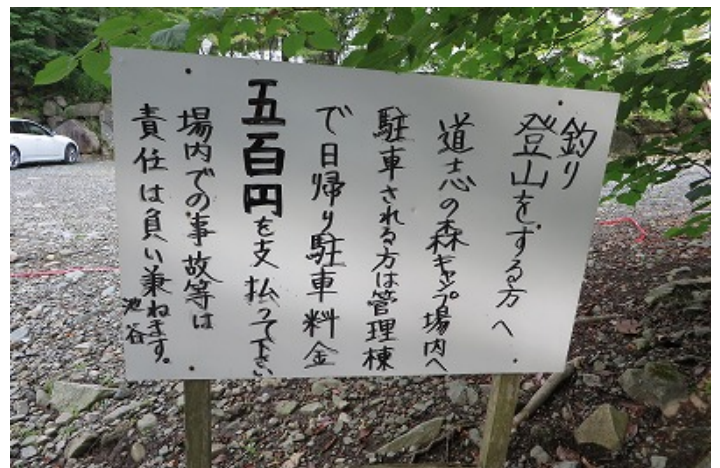
また、ルートを間違えてしまうというハプニングのおかげで、地図読みの重要さを改めて感じた。読図は難しいが少しずつ慣れていきたいと思う。いろいろ教えられたとても貴重な山行でした。

同行して下さった皆様ありがとうございました。お疲れさまでした。

以上



駐車場の看板





間違い林道



足元注意です



避難小屋



菰釣山頂上

その他の記述（後藤）

今回の登山の駐車場は、道志の森キャンプ場。ここは公立キャンプ場でなく私立キャンプ場。

駐車は、この奥の道路脇に置くことも出来るが、迷惑が掛かるので、ここの駐車場に置く。

道志の森キャンプ場は、以前、今ほど整備されていなく、駐車は適当に出来た。ある年、今回と同じ場所に駐車した。その時、その空き地は、普通の空き地で、駐車場の表示は、なかった。

登山を終え、帰ろうとしたら、自称「地主」が来て、駐車代500-を払えと言う。車は3台だった。ここで揉めた。駐車場の表示がなにもなく、500-はおかしい、が当方の主張。「地主」は、ここは、あくまで私の土地だから、駐車料金を払えと譲らない。

結局、一人は面倒なので、支払って、そそくさと帰った。私を含め、あとの二台は、根気よく交渉して、払わず帰って来た。これはお金の問題ではない。ある意味、契約問題である。始めから、駐車場表記があつて、有料なら、それはそれで納得出来る。何も表示がなく、払えは、納得出来ない。

これには、後日談があつて、知り合いの弁護士に相談したら、「駐車場の表示がなくても、地主から請求があつたら支払はなければならない」だった。しかし、これはあくまで法律的なことで、状況によって心情は変わる。全く、どうでもイイよう路肩みたいな所では、とても支払う気持ちにはなれない。疑ってみれば、「本当に請求者が地主かどうか」も不明である。

過去に、そんな問題があつたためか、どうか分からないが、今回は、しっかり看板表示があつた。これなら納得で「暗黙の契約は出来る」。従って、500-支払って来た。これなら、お互いに気持ち良い。これが、本来の形だと思います。

以上

